

審判講習会 参加報告書

平成 28 年 4 月 25 日

報告者 宮田 智仁

この度参加しました、審判講習会について報告します。
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	東日本大震災復興支援 JX-ENEOS 第47回全国ミニバスケットボール大会
参加者 (報告者)	宮田 智仁 (所属カテゴリー) ミニ連
期 日	平成28年 3 月 27 日(日) から 平成28年 3 月 30 日(水)
会 場	国立代々木競技場第一体育館・第二体育館
講 師	中山 泰夫氏・吉田 正治氏・渡邊 諭氏・小坂井 郁子氏
参加者	審判委員長・委員18名、派遣審判委員97名 合計115名
報告① <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技講習 <input checked="" type="checkbox"/> ゲーム (該当に レ)	<p>茨城県 対 岡山県 <女子></p> <p><input type="checkbox"/> ゲーム 主審 鍋島 光博氏(熊本県) 副審 宮田 智仁(報告者) コート主任 惣万 直樹氏(富山県)</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容 (プレゲームカンファレンス)</p> <p>・エリア3、エリア4の受け渡しの確認。リードが受けているなら、トレイルは早めに逆サイドに移動する。</p> <p>・コート特徴上、リードがエリア6方向に移動しにくいので、アウトオブバウンズ等はトレイルが協力する。</p> <p>(ゲーム後コート主任から)</p> <p>1試合通して、二人が協力して試合を運営できていた。宮田氏の方は足を活かして積極的に動き、鍋島氏の方は、それに合わせて落ち着いて全体を見ていた。二人がマッチしていたと思う。その中で、エリア6への移動が遅れているケースが見うけられた。動きながらの判定になってしまったものやストレートラインになってしまったものがあった。</p> <p>また、接触はあったが、影響がなかったものまで取り上げてしまっているケースがあった。</p>

<p>報告②</p> <p>□ 講義</p> <p>□ 実技講習</p> <p>レ ゲーム</p> <p>(該当に レ)</p>	<p>兵庫県 対 長崎県 <男子></p> <p>□ゲーム 主審 相木 康岳氏(委員会) 副審 宮田 智仁(報告者)</p> <p>コート主任 勝原 芳徳氏(山口県 A 級)</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>(プレゲームカンファレンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグマンがお互いのチームにいるので、インサイドでのDFに注意する。 ・アイコンタクトで意思の疎通を図り、協力していく。 ・リバウンドの飛び込みについて、トレイルが注意して判定する。 <p>(ゲーム後コート主任から)</p> <p>DFの手の使い方について、シリンダーを犯しているもの、犯していないものの判定が曖昧で、ムラがあり選手に基準が伝わっていなかった。</p> <p>2Qで選手がブロックショット後、転倒してしまった場面で、リードで受けているが、プレーを長く見られていない。最後の接触だけで判定しまっている。DFが遅れているのか、ブロックは前へ飛んでいるのか、上へ飛んでいるのか等、接触の前段階から関係を見る必要がある。そのためには、もう一步広くポジションを取る必要がる。</p>
<p>所感</p>	<p>大会を通じて感じたことは、</p> <p>①プレーを見に行くこと。足を運ぶことは絶対条件。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの方のミーティングの内容で、主任の方から「足を運んでしっかりとプレーを捉えにいく意識はもっているので、それは続けて下さい。その上で・・・」というコメントが多くありました。全国大会においても足を運ぶことについて皆さんが意識していた。そして、準備していた。当たり前のように言われていることだが、その重要性を再認識し、私自身続けていけるよう努力していく。 <p>②自分のエリア、判定に責任を持つこと。</p> <p>自分のエリアの判定の不確かさの結果、選手が負傷し、試合を中断させてしまった。負傷するプレーの前に、同選手がDFで行き過ぎる傾向があり、それを判定することができず、結果、ブロックショットから負傷につながってしまった。負傷したプレーの前に、行き過ぎであることを笛で表現できていれば、負傷することはなかったと思う。</p> <p>一つの躊躇が、見逃しが、選手に大きな影響を与えることを痛感した。</p> <p>自分なりに課題にチャレンジ、そして、失敗を経験した大会でした。</p> <p>この経験を活かし、今後も精進していきます。</p> <p>最後にこのような貴重な経験をさせていただいたことに、深く感謝申し上げます。</p> <p>誠にありがとうございました。</p>

※ 原文のまま、ホームページ等に掲載されます。

※ 用紙が足りない場合は、各自追加してください。